4　教育・人づくり分野

(1) 教　育

高等学校卒業者（全日制・定時制課程）の大学等進学率（2018 年 3 月卒）
　青森県　46.9%（男　44.1%　　女　49.8%）　全国平均　54.7%
高等学校卒業者（全日制・定時制課程）の就職率（　〃　）
　青森県　31.5%（男　36.6%　　女　26.2%）　全国平均　17.6%
　就職者のうち県内就職割合　56.7%　　県外就職割合　43.3%
※大学等進学率は、大学・短期大学の通信教育部への進学者を含む。

資料:文部科学省「学校基本調査」

①　学校数・在学者数・教員数の推移

少子化に伴い、県内の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の園児・児童・生徒数は年々減少している。なお、2015（平成 27）年 4 月の制度改正により新設された「幼保連携型認定こども園」については、既存の幼稚園や保育所からの移行が進み、年々増加している。**(表１)**

表１　学校数・在学者数・教員数の推移

（単位：校、人）

区分		2014	2015	2016	2017	2018年度
幼稚園	園　数	119	107	100	94	88
	園児数	7,946	6,533	6,013	5,734	5,078
	教員数	733	655	686	678	619
幼保連携型認定こども園	園　数	―	121	158	182	209
	園児数	―	10,270	13,438	15,274	17,338
	教員数	―	1,970	2,558	2,945	3,353
小学校	学校数	310	302	293	289	287
	児童数	64,876	62,719	60,644	59,233	58,394
	教員数	4,921	4,854	4,770	4,753	4,749
中学校	学校数	168	166	165	161	162
	生徒数	37,540	36,719	35,505	33,921	32,137
	教員数	3,272	3,262	3,250	3,148	3,068
高等学校	学校数	82	80	80	78	77
	生徒数	39,064	37,967	37,109	36,327	35,350
	教員数	3,216	3,140	3,121	3,107	3,082

※　高等学校では全日制、定時制、通信制について記載。併置している学校は1校として計上している。
※　高等学校の生徒数は専攻科を除いている。
※　表中の教員数は本務者のみ計上している。

資料：文部科学省「学校基本調査」

② 県立高等学校の規模等（学科、定員）

表２　2019年度県立高校全日制・定時制・通信制・八戸水産専攻科　募集人員

学校名	学科	募集人員（人）
青森	普通	280
青森西	普通	240
青森東	普通	240
青森北	普通	160
	スポーツ科学	40
同今別校舎	普通	40
青森南	普通	200
	外国語	40
青森中央	総合	200
浪岡	普通	70
青森工業	機械	35
	電子機械	35
	電気	35
	電子	35
	情報技術	35
	建築	35
	都市環境	35
青森商業	商業	160 } 200
	情報処理	40
五所川原	普通	160 } 200
	理数	40
金木	普通	40
木造	総合	160
同深浦校舎	総合	40
鰺ヶ沢	普通	40
板柳	普通	70
鶴田	普通	70
中里	普通	40
五所川原農林	生物生産	35
	森林科学	35
	環境土木	35
	食品科学	35
五所川原工業	機械	35
	電子機械	35
	電気	35
	情報技術	35
弘前	普通	240
弘前中央	普通	240
弘前南	普通	240
黒石	普通	120
	看護	40

学校名	学科	募集人員（人）
柏木農業	生物生産	35
	環境工学	35
	食品科学	35
	生活科学	35
弘前工業	機械	35
	電気	35
	電子	35
	情報技術	35
	土木	35
	建築	35
弘前実業	農業経営	40
	商業	80
	情報処理	40
	家庭科学	40
	服飾デザイン	40
	スポーツ科学	40
黒石商業	商業	80 } 120
	情報処理	40
	情報デザイン	40
三本木	普通	240
十和田西	普通	35
	観光	35
三沢	普通	240
野辺地	普通	80
七戸	総合	120
六戸	普通	70
百石	普通	80
	食物調理	40
六ケ所	普通	70
三本木農業	植物科学	35
	動物科学	35
	農業機械	35
	環境土木	35
	農業経済	35
十和田工業	機械・エネルギー	35
	電子機械	35
	電気	35
	電子	35
	建築	35
三沢商業	商業	80 } 120
	情報処理	40

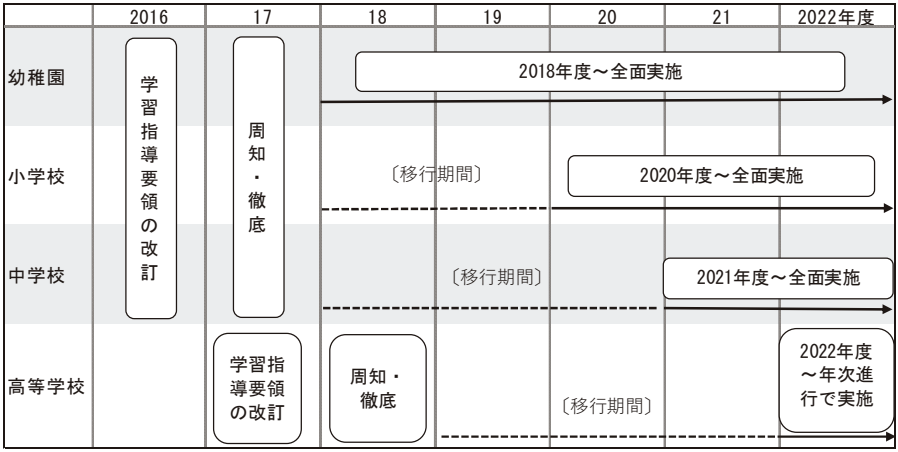
学校名	学科	募集人員（人）
田名部	普通	200
大湊	総合	200
大間	普通	70
むつ工業	機械	35
	電気	35
	電子	35
	設備・エネルギー	35
八戸	普通	240
八戸東	普通	200
	表現	30
八戸北	普通	240
八戸西	普通	160
	スポーツ科学	40
三戸	普通	70
五戸	普通	70
田子	普通	40
名久井農業	生物生産	35
	園芸科学	35
	環境システム	35
八戸水産	海洋生産	35
	水産食品	35
	水産工学	35
八戸工業	機械	35
	電子機械	35
	電気	35
	電子	35
	情報技術	35
	土木建築 土木コース	20
	土木建築 建築コース	15
	材料技術	35
八戸商業	商業	80
	情報処理	40
県立全日制計		8,320
北斗	普通（午前）	40
	普通（午後）	40
	普通（夜間）	40
青森工業	工業技術（夜間）	40
五所川原	普通（夜間）	40
尾上総合	総合（I部）	40
	総合（II部）	40
	総合（III部）	40
弘前工業	工業技術（夜間）	40
三沢	普通（夜間）	40
田名部	普通（夜間）	40
八戸中央	普通（午前）	40
	普通（午後）	40
	普通（夜間）	40
八戸工業	工業技術（夜間）	40
県立定時制計		600
北斗	普通	200
尾上総合	普通	150
八戸中央	普通	150
県立通信制計		500
八戸水産	漁業科	10
	機関科	10
八戸水産専攻科計		20

資料：県教育庁

③　新学習指導要領の導入スケジュール

学習指導要領が改訂され、外国語教育の充実・強化や情報活用能力の育成に向けて、小学校における外国語活動や外国語科の導入、プログラミング教育の必修化、ＩＣＴを活用した学習活動の充実などへ対応するための取組を進めている。

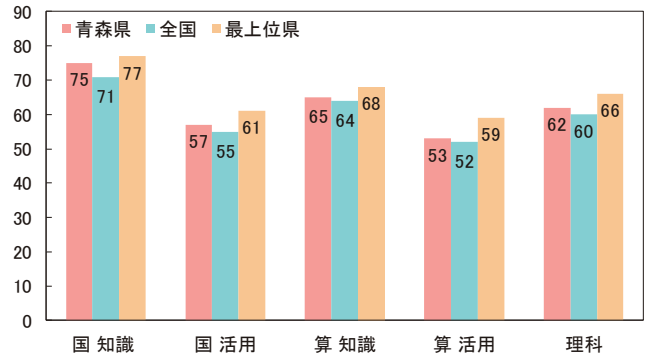
文部科学省の示す今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール



④　全国学力・学習状況調査に見る本県の児童生徒の学力

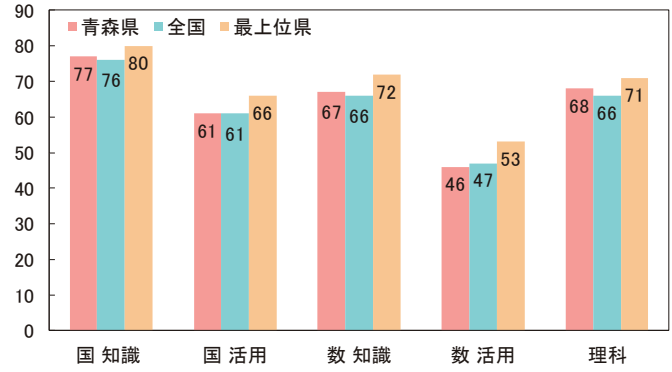
2018（平成 30）年度における本県公立小・中学校の児童生徒の学力は、教科に関する調査（対象：小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年）の平均正答率を比較すると、小学校は全ての教科において全国の平均正答率を上回り、中学校は国語知識・活用、数学知識及び理科で平均正答率が全国平均を上回るか同程度であり、数学活用は全国平均をやや下回っている。基礎的・基本的な学習内容は定着しているが、活用力に課題がみられる。**（図３、次頁図４）**

図3　全国学力・学習状況調査における平均正答率（小学校第6学年）



資料：国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」

図4　全国学力・学習状況調査における平均正答率（中学校第3学年）

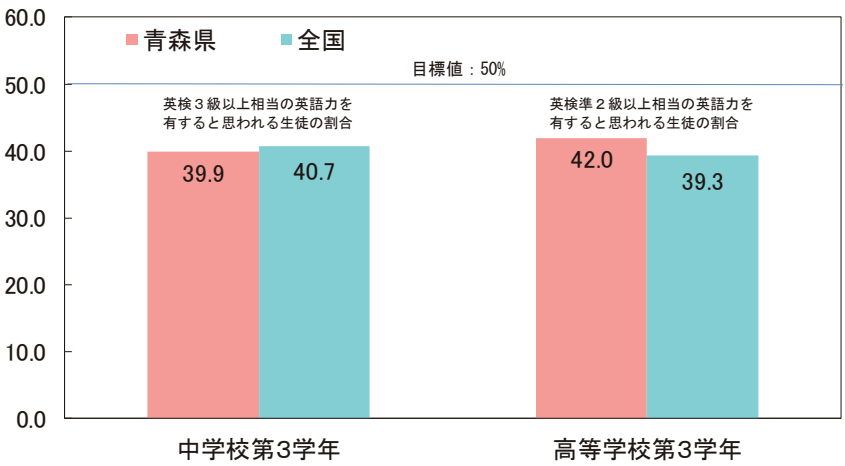


資料：国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」

⑤　本県の生徒の英語力の状況

本県の中学校第３学年に属する生徒のうち、英検３級以上相当の英語力を有すると思われる生徒の割合は全国平均よりやや低くなっている。高等学校第３学年に属する生徒のうち、英検準２級以上相当の英語力を有すると思われる生徒の割合は全国平均より高いが、国の掲げる目標値（50%）には達していない。**（図５）**

図5　生徒の英語力の状況（中学校・高等学校）



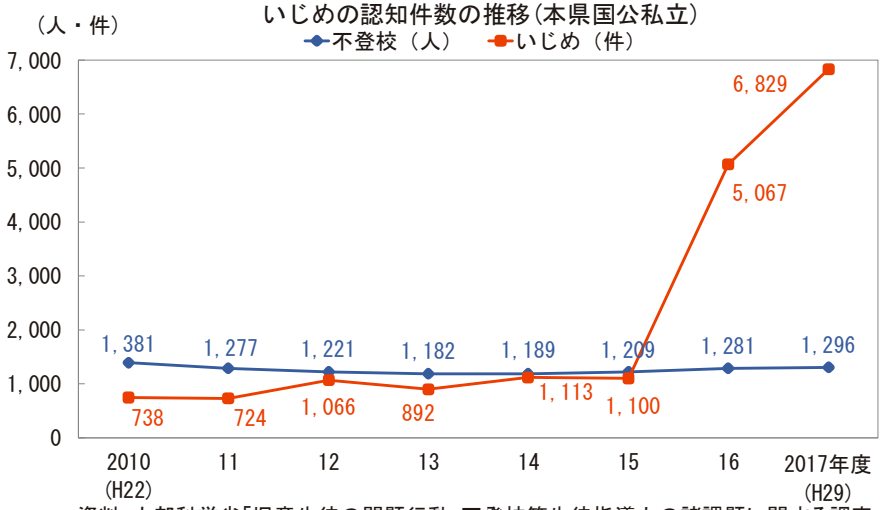
資料：文部科学省　2017（平成29）年度英語教育実施状況調査

⑥　本県の児童生徒の問題行動の状況

本県小・中学校における不登校児童生徒数は、横ばい傾向となっている。

また、小・中学校におけるいじめの認知件数は、いじめの早期発見や積極的な認知を働きかけてきたところ、2016（平成 28）年度から大幅に増えており、早期発見・早期対応に向けて、スクールカウンセラーの配置など相談体制の充実に取り組んでいる。**（図６、表７）**

図６　小・中学校における不登校児童生徒数、
いじめの認知件数の推移（本県国公私立）



資料：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

表７　スクールカウンセラー配置・派遣学校数及び延べ相談者数（公立小・中学校）

年度	2010	11	12	13	14	15	16	2017年度
スクールカウンセラー配置・派遣学校数（校）	123	126	126	126	144	161	186	275
スクールカウンセラー延べ相談者数（人）	11,101	11,408	10,712	12,205	15,148	17,293	21,881	24,301

資料：県教育庁

⑦　職場体験・インターンシップ実施状況

公立中学校の職場体験実施校は 2017（平成 29）年度において 98.1%と前年度より増加した。年間 5 日以上実施率は 3.9%と前年度より 1.3%減少し、全国平均を大きく下回っている。

また、公立高等学校におけるインターンシップ実施校の割合は前年度より増加したが、全国平均を下回る状況が続いている。**（表８）**

表８　職場体験・インターンシップ実施状況

（単位：校、%）

区　　分	2013	14	15	16	2017年度
職場体験実施校（青森県）	156	161	157	153	153
職場体験実施率（青森県）	95.1	100.0	98.1	95.6	98.1
職場体験実施率（全国）	98.6	98.4	98.3	98.1	98.6
年間５日以上実施率（青森県）	3.2	5.0	5.1	5.2	3.9
年間５日以上実施率（全国）	14.4	14.0	12.7	12.8	12.2
インターンシップ実施校（青森県）	57	56	54	51	52
インターンシップ実施率（青森県）	78.1	76.7	77.1	73.9	77.6
インターンシップ実施率（全国）	80.8	79.3	81.8	83.7	84.8

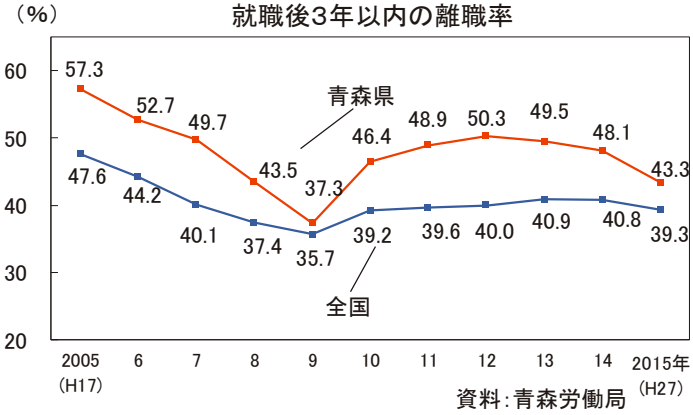
※　職場体験は公立中学校、インターンシップは公立高等学校（全日制・定時制）の実施状況。
※　実施率は学校数に対する実施校の割合。

資料：国立教育政策研究所「職場体験・インターンシップ実施状況等調査」

⑧　県内企業における新規高等学校卒業者の離職率

県内企業における新規高等学校卒業者の就職後 3 年以内の離職率は、2012（平成 24）年以降減少しているが、全国平均より高い状況が続いている。**（図９）**

図9　県内企業における新規高等学校卒業者の就職後3年以内の離職率



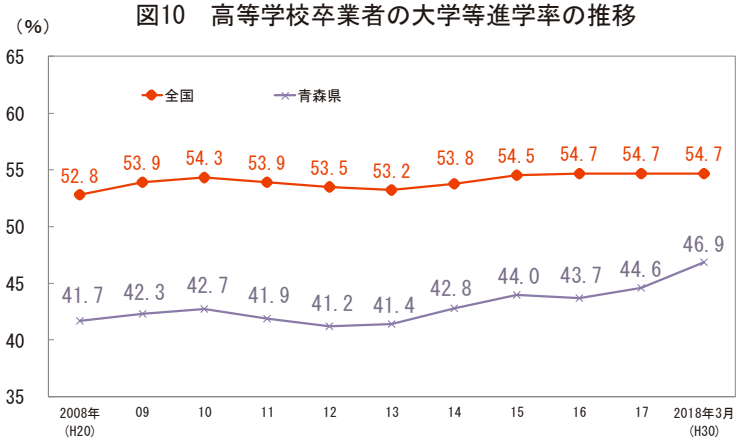
資料:青森労働局

⑨　高等学校卒業者の大学等進学率・就職率の推移

本県においては、1989（平成元）年頃までは就職率が 6 割前後、大学等進学率が 2 割前後で推移していたが、2002（平成 14）年に逆転し、近年は大学等進学率が 4 割程度、就職率は 3 割程度で推移している。

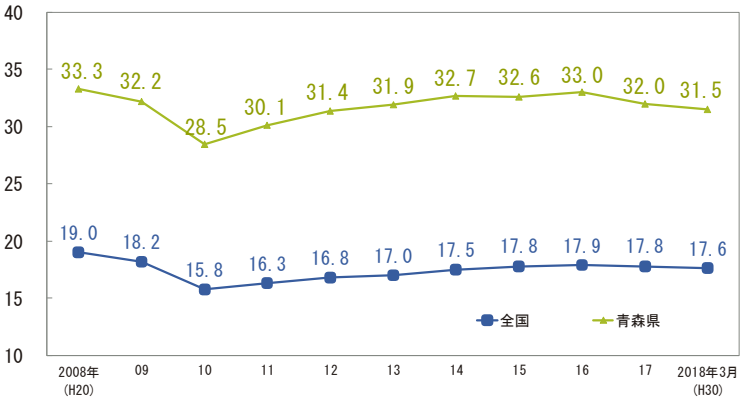
本県では経済的な要因等もあり、高等学校卒業後に就職を希望する生徒の割合が高いが、一方で景気動向などの経済情勢の変化や、企業の雇用環境の動向などにより、大学等進学率・就職率に変動が見られる。**（図 10、図 11）**

図10　高等学校卒業者の大学等進学率の推移



資料：文部科学省「学校基本調査」

図11　高等学校卒業者の就職率の推移

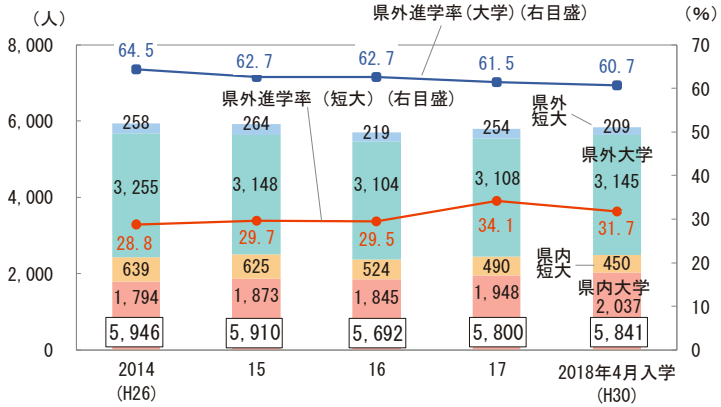


資料：文部科学省「学校基本調査」

⑩　県内高校出身者の大学・短期大学への入学状況

県内の高等学校を卒業し、2018（平成 30）年 4 月に大学・短期大学へ入学した者は、5,841 人であり、前年から 41 人増加した。大学入学者の県外進学率は、近年 60%程度となっている。**（図 12）**

図12　県内高校出身者の大学・短大への入学状況



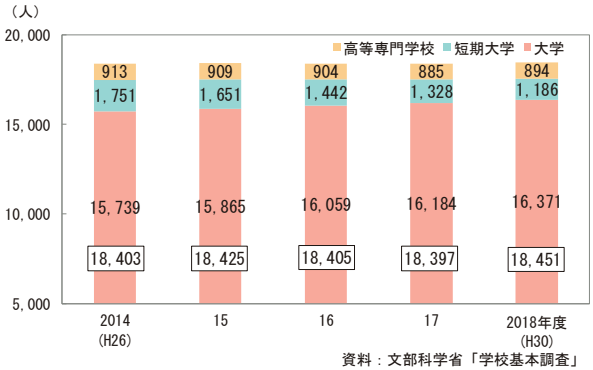
資料：文部科学省「学校基本調査」

⑪　高等教育機関在学者数の推移

2018（平成 30）年度の県内の大学等の高等教育機関数は、大学が 10 校（県外に本部を置く北里大学を除く）、短期大学が 5 校、高等専門学校が 1 校の計 16 校、在学者数は 1 万 8,451 人となっている。

県内の高等教育機関在学者数は、おおむね 1 万 8,000 人台で推移している。**（図 13、次頁表 14）**

図13　県内大学・短期大学・高等専門学校在学者数の推移



資料：文部科学省「学校基本調査」

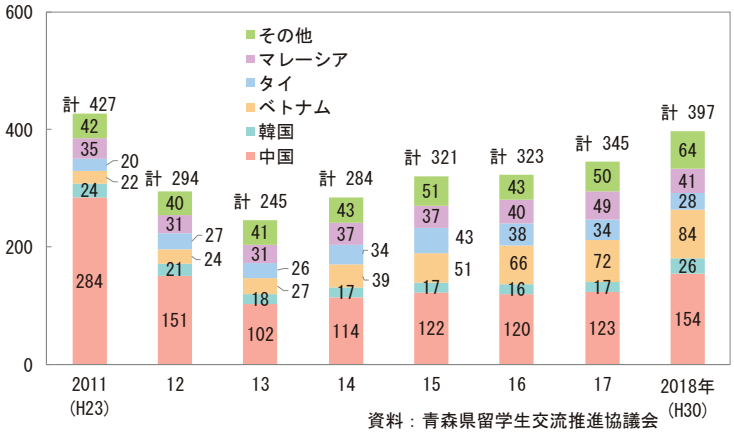
表14　青森県内の大学・短期大学等(2019年3月現在)

区分		名称	学部	学科
大学	国立	弘前大学	人文社会科学部	文化創生課程、社会経営課程
			教育学部	学校教育教員養成課程、 養護教諭養成課程
			医学部	医学科、保健学科
			理工学部	数物科学科、物質創成化学科、 地球環境防災学科、 電子情報工学科、機械科学科 自然エネルギー学科
			農学生命科学部	生物学科、分子生命科学科、 食料資源学科、国際園芸農学科、 地域環境工学科
		（大学院・修士課程） （大学院・修士課程・専門職学位課程）	人文社会科学研究科 教育学研究科	文化科学専攻、応用社会科学専攻 学校教育専攻、教職実践専攻
		（大学院・博士課程） （大学院・博士前期/後期課程）	医学研究科 保健学研究科	医科学専攻 保健学専攻
		（大学院・博士前期課程） （大学院・博士後期課程）	理工学研究科	理工学専攻 機能創成科学専攻、 安全システム工学専攻
		（大学院・修士課程）	農学生命科学研究科	農学生命科学専攻
		（大学院・博士後期課程）	地域社会研究科	地域社会専攻
		（大学院・博士課程）	岩手大学大学院 連合農学研究科	生物生産科学専攻、 生物資源科学専攻、 生物環境科学専攻
	公立	青森県立保健大学	健康科学部	看護学科、理学療法学科、 社会福祉学科、栄養学科
		（大学院・博士前期/後期課程）	健康科学研究科	健康科学専攻
		青森公立大学	経営経済学部	経営学科、経済学科、地域みらい学科
		（大学院・博士前期（修士）/後期課程）	経営経済学研究科	経営経済学専攻
	私立	北里大学	獣医学部	獣医学科、動物資源科学科、 生物環境科学科
		（大学院・修士課程）	獣医学系研究科	動物資源科学専攻、生物環境科学専攻
		（大学院・博士課程）	獣医学系研究科	獣医学専攻、動物資源科学専攻
		青森大学	総合経営学部 社会学部 ソフトウェア情報学部 薬学部	経営学科 社会学科 ソフトウェア情報学科 薬学科
		青森中央学院大学	経営法学部 看護学部	経営法学科 看護学科
		（大学院・修士課程）	地域マネジメント研究科	地域マネジメント専攻
		東北女子大学	家政学部	健康栄養学科、児童学科
		弘前学院大学	文学部 社会福祉学部 看護学部	英語・英米文学科、日本語・日本文学科 社会福祉学科 看護学科
		（大学院・修士課程）	文学研究科 社会福祉学研究科	日本文学専攻 人間福祉専攻
		弘前医療福祉大学	保健学部	看護学科、 医療技術学科（作業療法学専攻、 言語聴覚学専攻）
		八戸工業大学	工学部	機械工学科 電気電子工学科 システム情報工学科 生命環境科学科 土木建築工学科
			感性デザイン学部	創生デザイン学科
		（大学院・博士前期/後期課程）	工学研究科	機械・生物化学工学専攻 電子電気・情報工学専攻 社会基盤工学専攻
		八戸学院大学	ビジネス学部 地域経営学部 健康医療学部	ビジネス学科 地域経営学科 人間健康学科、看護学科
短期大学	私立	青森明の星短期大学		子ども福祉未来学科
		青森中央短期大学		食物栄養学科 幼児保育学科 専攻科福祉専攻
		東北女子短期大学		生活科、保育科
		弘前医療福祉大学短期大学部		救急救命学科 生活福祉学科（介護福祉専攻、 食育福祉専攻）
		八戸学院短期大学		幼児保育学科、ライフデザイン学科、 介護福祉学科
独立行政法人国立高等専門学校機構				産業システム工学科（本科）
八戸工業高等専門学校				産業システム工学専攻（専攻科）

⑫　留学生の在学状況

県内の大学、短期大学、高等専門学校に在籍する外国人留学生は 2018（平成 30）年 5 月 1 日現在で 397 人となっており、うち中国からの留学生が全体の 38.8％を占めている。教育機関のＰＲ強化等により、外国人留学生は前年より 52 人増加している。**（図 15）**

図15　県内大学等における外国人留学生在籍状況

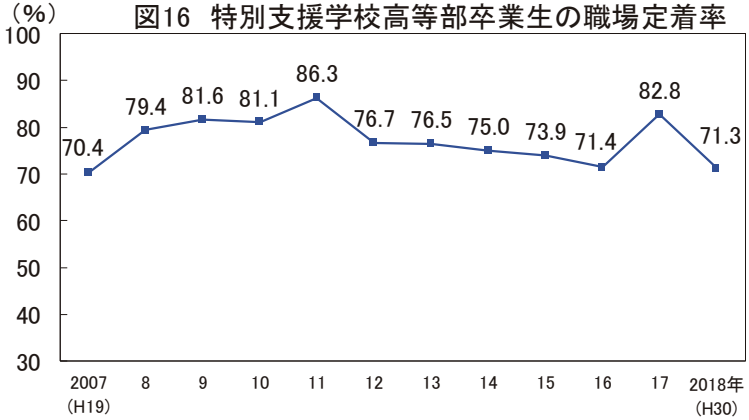


資料：青森県留学生交流推進協議会

⑬　特別支援学校高等部卒業生の職場定着率

特別支援学校高等部卒業生の職場定着率は、70％以上を維持している。**（図 16）**

図16　特別支援学校高等部卒業生の職場定着率



（注）特別支援学校高等部卒業後3年間同じ職場で勤務している者の割合（各年3月）

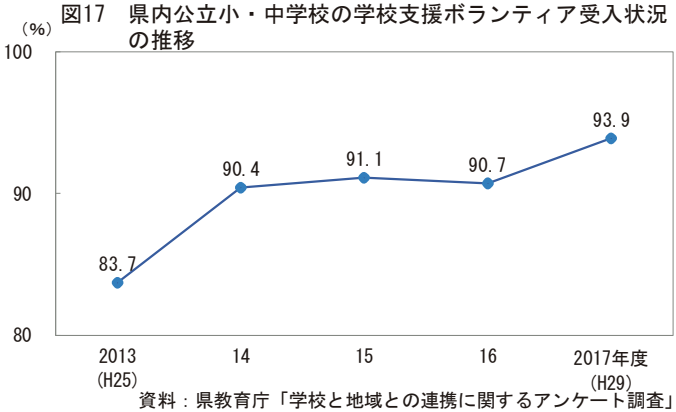
資料：県教育庁

⑭　学校支援ボランティアの受入状況

県内の公立小・中学校で、学校の教育活動を支援するためのボランティア（学校支援ボランティア）を受け入れている割合は、2017（平成 29）年度において 93.9%であり、地域ぐるみで学校を支援する活動が広がっている。**(図 17)**

学校支援ボランティア活動の分野別の受入割合は、多い順に「ゲストティーチャー」(80.6%)、「環境サポーター」(76.5%)、「学校行事の補助」(69.1%)、「学習アシスタント」(57.6%)、「施設メンテナー」(21.1%) となっている。

図17　県内公立小・中学校の学校支援ボランティア受入状況の推移



資料：県教育庁「学校と地域との連携に関するアンケート調査」

⑮　図書館の利用状況

2018（平成 30）年 4 月 1 日現在、県内には 33 の図書館がある。図書を借用して館外に持ち出した者（帯出者）の延べ人数は、2004（平成 16）年度と比較して 2014（平成 26）年度は 3.5%減少しているが、貸出冊数は 5.6%増加している。**(表 18)**

表18　図書館の利用状況

（単位：人）

区　分	2004（H16）	2007	2010	2014年度
登録者数	197, 789	190, 338	180, 394	140, 097
うち児童	21, 339	16, 470	22, 861	16, 871
帯出者数	1, 068, 992	1, 142, 932	1, 158, 017	1, 031, 890
うち児童	205, 107	161, 252	144, 897	154, 779
貸出冊数	3, 383, 272	3, 550, 526	3, 633, 237	3, 573, 857
うち児童	813, 421	633, 814	650, 672	739, 471

※　登録者数、帯出者数等で児童数内訳を把握できない図書館あり。

資料：文部科学省「社会教育調査」

(2)　人づくり、移住・交流

移住相談・情報提供件数（2017（平成 29）年度）　11,179 件

在留外国人数	青森県	全　国
（2017（平成29）年末）	5,121 人（男1,891, 女3,230）	256 万 1,848 人
うち中国	1,217 人（男 471, 女 746）	73万 890 人
韓国	759 人（男 348, 女 411）	45万 663 人
ベトナム	1,093 人（男 256, 女 837）	26 万 2,405 人

資料：県企画政策部、法務省「在留外国人統計」

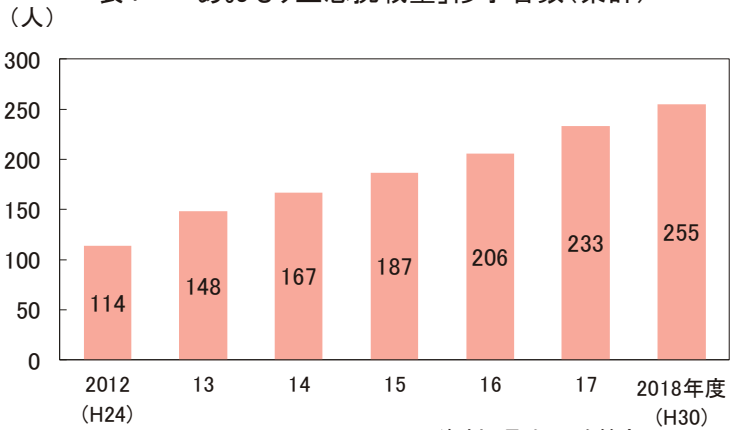
①　「あおもり立志挑戦塾」の開催

「あおもり立志挑戦塾」は、本県の経済や地域づくりをけん引していく気概とチャレンジ精神、自由で柔軟な発想力、そして広い視野を持って、何事にも果敢に挑戦していく人財の育成とネットワークづくりを目的に、20～30代の県内社会人を対象に開催される人財育成の取組である。

塾では、塾長や多彩な講師による講話や、同世代の仲間とのグループディスカッション等を通じて、自らが生涯を通じて達成を目指す「人生の志」を立てるなど、自らの人生観や新たな世界観を広げ、成長する場を提供している。

2008（平成20）年からこれまでに255名（1期～11期生）が塾を修了しており、県内各地域・各分野でリーダーとして活躍しているほか、「あおもり立志挑戦の会(ARC)」を設立し、地域貢献活動を行っている。**（図１）**

表1　「あおもり立志挑戦塾」修了者数（累計）



資料：県企画政策部

②　移住・相談窓口の設置状況

本県の首都圏における情報発信と移住相談窓口として「青森暮らしサポートセンター」を東京都内に設置し、専属の移住相談員による常時の相談体制を整えるとともに、首都圏セミナーを開催するなど移住・交流の促進に取り組んでいる。

県内40市町村全てにおいて、専門の担当窓口を設置しているほか、弘前市、八戸市では、首都圏における独自の相談窓口を設置している。**（表２）**

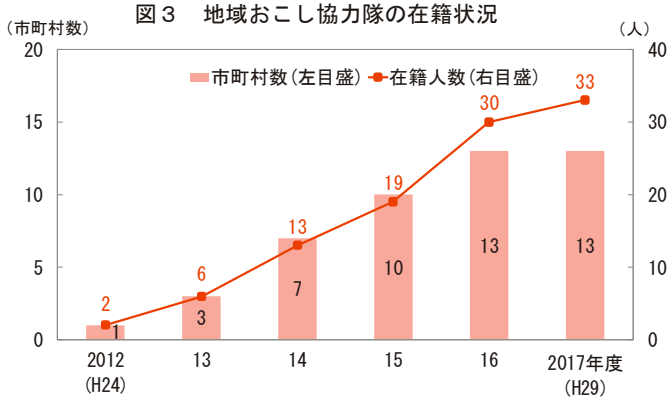
表2　移住・相談窓口の設置状況

	名称	所在地
青森県 （40市町村）	青森暮らしサポートセンター	東京交通会館　8階 （ふるさと回帰支援センター内）
弘前市	ひろさき移住サポートセンター東京事務所	東京交通会館　6階
八戸市	八戸圏域連携中枢都市圏　観光・UIJターン窓口	全国都市会館　5階 （八戸市東京事務所内）

③　地域おこし協力隊の在籍状況

地域おこし協力隊は2018（平成30）年3月末時点で、13市町村で33名の隊員が地域活動に従事している。**（図３）**

図３　地域おこし協力隊の在籍状況



資料：県企画政策部

※在籍状況は、各年度3月末時点で各市町村が受け入れた隊員の総数。

※地域おこし協力隊：都市地域から過疎地域等へ生活の拠点を移し、おおむね１年以上３年以下の期間、地方自治体等の委嘱を受けて地域で生活し、農林漁業の振興、住民の生活支援などの各種の地域活動に従事する者をいう。

④　外国人登録者数

県内外国人登録者数は、近年増加傾向にあり、2017（平成29）年は5,121人となった。

国籍別の内訳は、アジア地域が全体の87.3%を占め、中国、韓国・朝鮮、ベトナムの割合が大きくなっている。中でも、近年、ベトナムの割合が増加してきている。**（表４）**

表４　県内主要国籍別外国人登録者数

（単位：人）

地域・国	2012年(H24)	13年	14年	15年	16年	2017年(H29)
アジア	3,342	3,352	3,417	3,614	3,922	4,472
中国	1,363	1,310	1,259	1,236	1,106	1,217
韓国・朝鮮	980	958	888	862	844	838
フィリピン	528	534	535	535	551	589
ベトナム	99	133	247	414	771	1,093
その他	372	417	488	567	650	735
ヨーロッパ	128	140	138	135	131	123
北アメリカ	361	390	396	408	425	434
南アメリカ	47	33	36	36	38	37
オセアニア	34	35	32	30	30	35
アフリカ	17	24	21	21	21	19
無国籍	1	1	1	1	1	1
計	3,930	3,975	4,041	4,245	4,568	5,121

資料：法務省「在留外国人統計」

在留資格別に内訳を見ると、永住・定住を除き技能実習の割合が最も多く、2012（平成24）年から2017（平成29）年の５年間で２倍の伸びとなっている。次いで、割合は大きく下がり、留学生、技能・人文知識・国際業務が続いている。**（次頁表５）**

2017（平成29）年の国籍別・在留資格別では、技能実習においてベトナムが1，650人の登録者数のうち937人と56.8%を占め、また、留学においてもベトナムが中国に次いで２番目に多くなっている。**（次頁表６）**

表５　県内在留資格別外国人登録者数

（単位：人）

在留資格	2012年 (H24)	13年	14年	15年	16年	2017年 (H29)	構成比 (%)	対前年伸び率 (%)
留学	291	280	313	338	352	384	7.5	9.1
技能実習	779	786	864	995	1,271	1,650	32.2	29.8
高度専門職（※2015年新設）				3	3	6	0.1	100.0
技能	80	81	77	84	81	67	1.3	△ 17.3
技術・人文知識・国際業務	98	105	104	121	151	188	3.7	24.5
教育	130	137	129	138	143	144	2.8	0.7
教授	21	19	17	15	15	14	0.3	△ 6.7
永住・定住	2,310	2,315	2,276	2,265	2,232	2,242	43.8	0.4
その他	221	252	261	286	320	426	8.3	33.1
計	3,930	3,975	4,041	4,245	4,568	5,121	100.0	12.1

資料：法務省「在留外国人統計」

表６　県内主要国籍別、在留資格別外国人登録者数（2017年）

（単位：人）

地域・国	計	留学	技能実習	高度専門職	技能	技術・人文知識・国際業務	教育	教授	永住・定住	その他
中国	1,217	140	473	2	9	35	－	6	392	160
韓国	759	15	－	2	1	23	－	4	694	20
フィリピン	589	1	79	－	－	12	3	－	482	12
ベトナム	1,093	82	937	－	－	33	－	－	20	21
その他	1,463	146	161	2	57	85	141	4	654	213
計	5,121	384	1,650	6	67	188	144	14	2,242	426

資料：法務省「在留外国人統計」

※在留資格者の該当例

留学：大学、短期大学，高等専門学校，高等学校中学校及び小学校等の学生・生徒

技能実習：技能実習生

高度専門職：ポイント制による高度人材

技能：外国料理の調理師，スポーツ指導者，航空機の操縦者，貴金属等の加工職人等

技術・人文知識・国際業務：機械工学等の技術者，通訳，デザイナー，私企業の語学教師，マーケティング業務従事者等

教育：中学校・高等学校等の語学教師等

教授：大学教授等

永住・定住：法務大臣から永住の許可を受けた者，日本人の配偶者・子・特別養子，永住者・特別永住者の配偶者及び本邦で出生し引き続き在留している子，第三国定住難民，日系３世，中国在留邦人等

⑤　本県の友好提携

本県の国際交流に係る協定等は、1980（昭和55）年にサンタ・カタリーナ州（ブラジル連邦共和国）、1992（平成4）年にハバロフスク地方（ロシア連邦）、1994（平成6）年にメーン州（アメリカ合衆国）、2002（平成14）年にリグーリア州（イタリア共和国）、2004（平成16）年に大連市（中華人民共和国）、2016（平成28）年に済州特別自治道（大韓民国）及び台中市（台湾）、2017（平成29）年に台南市（台湾）と締結している。

市町村では20市町村が友好提携（2018（平成30）年12月現在）を結び、教育、文化、芸術など様々な分野で地域の特色を生かした交流を行っている。**（表７）**

表７　県内自治体の姉妹・友好提携一覧

団体名		国名・地域	姉妹・友好提携先	提携年月日
青森県		ブラジル連邦共和国	サンタ・カタリーナ州	1980. 10. 23
		ロシア連邦	ハバロフスク地方	1992. 8. 27
		アメリカ合衆国	メーン州	1994. 5. 25
		イタリア共和国	リグーリア州	2002. 5. 7
		中華人民共和国	遼寧省大連（ダイレン）市	2004. 12. 24
		大韓民国	済州（チェジュ）特別自治道	2016. 8. 8
		台湾	台中市　※平川市を含む三者による協定	2016. 12. 14
		台湾	台南市　※弘前市を含む三者による覚書	2017. 12. 4
市町村	青森市	ハンガリー	バーチ・キシュクン県ケチケメート市	1994. 8. 4
		大韓民国	京畿道平澤（ピョンテク）市	1995. 8. 28
		中華人民共和国	遼寧省大連市	2004. 12. 24
		台湾	新竹県	2014. 10. 17
	弘前市	台湾	台南市　※県を含む三者による覚書	2017. 12. 4
	八戸市	アメリカ合衆国	ワシントン州フェデラルウェイ市	1993. 8. 1
		中華人民共和国	甘粛省蘭州（ランシュウ）市	1998. 4. 14
	黒石市	アメリカ合衆国	ワシントン州ウェナッチ市	1971. 10. 5
		大韓民国	慶尚北道永川（ヨンチョン）市	1984. 8. 17
	三沢市	アメリカ合衆国	ワシントン州ウェナッチ市	1981. 10. 4
		アメリカ合衆国	ワシントン州東ウェナッチ市	2001. 8. 23
	むつ市	アメリカ合衆国	ワシントン州ポートエンジェルス市	1995. 8. 13
	つがる市	アメリカ合衆国	メーン州バス市	2006. 7. 6
	平川市	台湾	台中市　※県を含む三者による協定	2016. 12. 14
	鰺ヶ沢町	ブラジル連邦共和国	サンパウロ州サンセバスチョン市	1984. 10. 26
	深浦町	フィンランド共和国	ラップランド州ラヌア郡	1990. 6. 26
	西目屋村	中華人民共和国	吉林省梨樹県葉嚇満族鎮（ヨウカクマンゾクチン）	1985. 4. 29
	大鰐町	アメリカ合衆国	ミシガン州ノーバイ市	1991. 12. 20
	板柳町	アメリカ合衆国	ワシントン州ヤキマ市	1972. 2. 3
		中華人民共和国	北京市昌平（ショウヘイ）区	1993. 6. 23
	鶴田町	アメリカ合衆国	オレゴン州フッドリバー市	1977. 7. 27
	七戸町	大韓民国	慶尚南道河東（ハドン）郡	1994. 11. 16
	六ケ所村	ドイツ連邦共和国	メクレンブルク・フォアポンメルン州ヴァーレン市	1994. 4. 22
	大間町	台湾	雲林県虎尾鎮（コビチン）	1979. 10. 10
	三戸町	オーストラリア連邦	ニューサウスウェールズ州タムワース市	2001. 7. 5
	五戸町	フィリピン共和国	ヌエバ・ビスカヤ州バヨンボン町	1983. 12. 22
		大韓民国	忠清北道沃川（オクチョン）郡	1997. 8. 28
	田子町	アメリカ合衆国	カリフォルニア州ギルロイ市	1988. 4. 18
		イタリア共和国	ピアツェンツァ郡モンティチェリ・ドンジーナ町	1992. 9. 11
		大韓民国	忠清南道瑞山（ソサン）市	2012. 6. 22

資料：県観光国際戦略局

(3) 文化・スポーツ

県立郷土館利用者数（2017（平成 29）年度）　約 5 万 4 千人
県立美術館入館者数（　　〃　　）　約 20 万　　人
県内の公共スポーツ施設（2015（平成 27）年度）　　832 施設
第 73 回国民体育大会（2018（平成 30）年）天皇杯 42 位（前回 35 位）
資料：文部科学省「2015（平成 27）年度体育・スポーツ施設現況調査」、県教育庁、県観光国際戦略局

①　「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成リスト

早期の世界文化遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」の 17 の構成資産のうち８つが県内に所在している。

青森県：三内丸山遺跡、小牧野遺跡、大森勝山遺跡、是川石器時代遺跡、田小屋野貝塚、亀ヶ岡石器時代遺跡、大平山元遺跡、二ツ森貝塚
北海道：大船遺跡、垣ノ島遺跡、キウス周堤墓群、北黄金貝塚、入江・高砂貝塚（入江貝塚）、入江・高砂貝塚（高砂貝塚）
岩手県：御所野遺跡
秋田県：大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡

② ユネスコ無形文化遺産

重要無形民俗文化財「八戸三社大祭の山車行事」など18府県33県の祭りで構成される「山（やま）・鉾（ほこ）・屋台行事（やたいぎょうじ）」が、2016（平成28）年12月にユネスコ無形文化遺産に登録されている。

③ 日本遺産

県無形民俗文化財である「鰺ヶ沢白八幡宮の大祭行事」や、県重宝である深浦町の円覚寺宝篋印塔（えんがくじほうきょういんとう）、野辺地町の町指定史跡「浜町の常夜燈」などの文化財を含む「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」が、日本遺産に認定されている。（日本海及び瀬戸内海沿岸自治体により構成）

④ 文化財

表１　国・県指定文化財一覧（2019年2月28日現在）

【国指定】

国宝	
工芸品	2
考古資料	1
重要文化財	
建造物	32
彫刻	2
工芸品	7
考古資料	13
重要無形文化財	
工芸技術	1
民俗文化財	
重要有形民俗文化財	8
重要無形民俗文化財	8
記念物	
特別史跡	1
史跡	21
特別名勝及び天然記念物	1
名勝及び天然記念物	1
名勝	5
特別天然記念物	2
天然記念物	16
合計	121

【県指定】

県重宝	
建造物	44
絵画	6
彫刻	30
工芸品	29
書跡	2
考古資料	28
歴史資料	11
無形文化財	
県技芸	2
民俗文化財	
県有形民俗文化財	13
県無形民俗文化財	54
記念物	
県史跡	20
県名勝	3
県天然記念物	40
合計	282

【国選定等】

選定	
重要伝統的建造物群保存地区	2
選定保存技術	1
登録	
登録有形文化財（建造物）	103
登録有形民俗文化財	1
登録記念物	4
記録選択	
記録作成等の措置を講ずべき無形文化財	1
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	15
重要美術品	
書跡	4
考古資料	1
合計	132

資料：県教育庁

【国指定の主な文化財】

国宝［工芸品］

赤糸威鎧兜大袖付（あかいとおどしよろいかぶとおおそでつき）、白糸威褄取鎧兜大袖付（しらいとおどしつまどりよろいかぶとおおそでつき）（いずれも八戸市）

国宝［考古資料］

合掌土偶（八戸市風張（かざはり）1遺跡出土）

重要文化財［建造物］

弘前城、最勝院五重塔（いずれも弘前市）、櫛引八幡宮本殿（八戸市）

重要無形文化財［工芸技術］

津軽塗

重要無形民俗文化財

青森のねぶた、八戸のえんぶり、下北の能舞

記念物［特別史跡］

三内丸山遺跡（青森市）

記念物［特別名勝及び天然記念物］

十和田湖および奥入瀬渓流（十和田市）

⑤　伝統工芸

県内には、津軽塗や南部裂織を始め、地域に生まれ、生活の中で育まれてきた優れた伝統工芸品が数多く存在する。これらの多くは、後継者や販路の確保といった課題を抱えていることから、県では、伝統工芸品の価値の再評価とその作り手の意識の向上を図るため、一定の要件を満たすものを「青森県伝統工芸品」に指定している。**（表２）**

表２　青森県伝統工芸品一覧表

工芸品名	市町村名
津軽塗	弘前市
津軽焼	弘前市
八戸焼	八戸市
下川原焼土人形	弘前市
あけび蔓細工	弘前市
津軽竹籠	弘前市
ひば曲物	藤崎町
こぎん刺し	青森市、弘前市
南部裂織	八戸市、十和田市、むつ市 七戸町、佐井村、五戸町
南部菱刺し	八戸市、七戸町、五戸町
温湯こけし	黒石市
大鰐こけし・ずぐり	大鰐町
弘前こけし・木地玩具	弘前市
八幡馬	八戸市
善知鳥彫ダルマ	青森市

工芸品名	市町村名
津軽凧	弘前市
津軽びいどろ	青森市
錦石	青森市、弘前市、外ヶ浜町
南部姫鞠	南部町
えんぶり烏帽子	八戸市
きみがらスリッパ	十和田市
目屋人形	西目屋村
津軽打刃物	弘前市
津軽桐下駄	弘前市
南部総桐箪笥	三戸町、八戸市
太鼓	弘前市
ねぶたハネト人形	青森市
津軽裂織	青森市、平内町、つがる市
津軽組ひも	五所川原市
五戸ぱおり	五戸町
ブナコ	弘前市
南部花形組子	八戸市

資料：県商工労働部

⑥　祭り

本県には、日本を代表する火祭り「青森ねぶた祭」、歴史と文化に彩られた津軽の夏の風物詩「弘前ねぷたまつり」、様々な趣向を凝らした山車の迫力や華麗さが魅力の「八戸三社大祭」、奥津軽の夏の夜空を焦がす勇壮絢爛な「五所川原立佞武多」、京都祇園祭の流れを汲む豪華絢爛な「田名部まつり」などの夏祭りや、三八地域に春を呼ぶ豊作祈願の祭りである「えんぶり」を始め、県内各地に四季折々の伝統的な祭りが数多くある。

これらの祭りは、観光資源としてはもとより、少子化・高齢化が進む中にあって、地域の絆を強め、コミュニティ機能を維持していく上でも重要な役割を担っており、地域に根ざした県民共通の財産として、未来へ伝えていく必要がある。

⑦　本県出身の主な文化人、著名人、スポーツ選手

本県の豊かな自然や風土に育まれて、多くの県人が文学やアート、芸能、スポーツなど様々な分野で多彩な活躍をしている。**（表３：敬称略）**

表３　本県出身の主な文化人、著名人、スポーツ選手など

文学・ジャーナリズム	陸羯南（クガ カツナン）（1857～1907）	新聞「日本」を創刊し、明治時代における我が国の言論界をリードした。
	羽仁もと子（ハニ モトコ）（1873～1957）	日本初の女性記者。「家庭之友」（のち「婦人之友」）を創刊するとともに、自由教育を推進するため、「自由学園」を創設した。
	石坂洋次郎（イシザカ ヨウジロウ）（1900～1986）	軽快な青春小説で国民的な人気を博した作家。戦後発表された「青い山脈」が大ヒットし、「百万人の作家」と称され、一世を風靡した。
	太宰治（ダザイ オサム）（1909～1948）	近代日本文学を代表する作家。「人間失格」「斜陽」「走れメロス」を始め、多くの作品を世に出した。2009年に生誕100周年を迎え、作品が映画化されるなど再び人気が高まっている。
	三浦哲郎（ミウラ テツオ）（1931～2010）	1961年「忍ぶ川」で、県人初となる、第44回芥川賞を受賞。その後も様々な作品を発表し、数多くの文学賞を受賞した。
	長部日出雄（オサベ ヒデオ）（1934～2018）	弘前市出身の小説家、評論家。1973年、「津軽じょんがら節」と「津軽世去れ節」により第69回直木賞を受賞。
	寺山修司（テラヤマ シュウジ）（1935～1983）	歌人、詩人、劇作家、映画監督など、多くの分野で活躍。演劇実験室「天井桟敷」を結成し、海外公演も手がけるなど、マルチな才能を発揮した。
	沢田教一（サワダ キョウイチ）（1936～1970）	報道カメラマンとして、ベトナム戦争の最前線で取材を行った。撮影した写真は国際的に高い評価を受け、「安全への逃避」はピュリッツァー賞に輝いた。
	梅内美華子（ウメウチ ミカコ）（1970～）	歌人。2011年、歌集「エクウス」が高い評価を受け、文化庁の芸術選奨新人賞を受賞。
	高橋弘希（タカハシ ヒロキ）（1979～）	十和田市生まれの小説家。2018年、「送り火」で第159回芥川賞を受賞。県出身者では、三浦哲郎以来57年ぶりの受賞。
科学技術	石館守三（イシダテ モリゾウ）（1901～ 1996）	薬学の世界的権威で、東京大学初代薬学部長。ハンセン病の治療薬「プロミン」の国産化や、国産初のがん化学療法剤「ナイトロミン」の創製に成功した。
	木村秀政（キムラ ヒデマサ）（1904～1986）	東京帝国大学（現東京大学）航空研究所が設計し、長距離飛行記録を達成した「航研機」の制作や、初の国産旅客機「ＹＳ11」の開発に携わった。
	西山正治（ニシヤマ ショウジ）（1922～1993）	医師。世界初の「レントゲン車」を考案、開発するとともに、多方向から患部を撮影できる「ジャイロスコープ」の開発に取り組んだ。
	川口淳一郎（カワグチ ジュンイチロウ）（1955～）	小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャー。2010年、「はやぶさ」は7年の歳月を経て、小惑星「イトカワ」から帰還するという世界初の快挙を達成した。
	田邊優貴子（タナベ ユキコ）（1978～）	生態学者。国立極地研究所助教。南極・北極など世界の極地で生きる植物と湖沼を対象に生態学的な研究をしている。 南極と北極でそれぞれ7回の野外調査を実施。研究成果が国内外で注目を集めている。

美術・音楽	棟方　志功（ムナカタ　シコウ） （1903～1975）	「世界のムナカタ」と呼ばれ、20世紀を代表する世界的な「板画家」である。大胆かつ独創的な表現で、他に類を見ない独特の世界を築いた。
	鷹山　宇一（タカヤマ　ウイチ） （1908～1999）	画家。花やチョウなどをモチーフに、幻想的な画風で日本画壇に新風を巻き込むとともに、二科会の重鎮としても活躍した。
	工藤　甲人（クドウ　コウジン） （1915～2011）	現代日本画界を代表する一人。戦後、湧き起こった新しい日本画の創造を目指す活動に共感し、心象イメージを絵画世界に表す独特の作風を築き上げた。
	成田　亨（ナリタ　トオル） （1929～2002）	彫刻家、特撮美術監督。「ウルトラマン」シリーズの多くの怪獣、ウルトラマン、宇宙人、メカのデザインを手がけ、現代日本文化を代表するモチーフを生み出した。
	奈良　美智（ナラ　ヨシトモ） （1959～）	我が国を代表する現代美術家。国際的にも高い評価を受けており、独特の風貌の少女を描いた作品や、青森県立美術館にある「あおもり犬」で有名。
	ナンシー関（カン） （1962～2002）	著名人の似顔絵の消しゴム版画と、これを挿絵として使ったコラムで人気を博した。
	高橋　竹山（タカハシ　チクザン） （1910～1998）	津軽三味線を国内はもとより海外へも広めた津軽三味線演奏の第一人者。アメリカ公演では、「三味線の名匠」と絶賛された。
	淡谷　のり子（アワヤ） （1907～1999）	東洋音楽学校（現在の東京音楽大学）を首席で卒業し、歌謡界へ。日本のシャンソン界の先駆者となる。「別れのブルース」「雨のブルース」が大ヒットし、「ブルースの女王」と呼ばれた。
スポーツ選手など	齋藤　春香（サイトウ　ハルカ） （1970～）	弘前市出身。ソフトボール選手・指導者。2000年シドニー、2004年アテネオリンピックに出場し、主砲として活躍し、2大会連続で銀メダルを獲得。2008年北京オリンピックでは、ソフトボール日本代表監督として金メダルに導いた。
	小原　日登美（オバラ　ヒトミ） （1981～）	八戸市出身。2012年ロンドンオリンピック女子レスリング48キロ級で金メダルを獲得。
	伊調　千春（イチョウ　チハル） （1981～）	八戸市出身。2004年アテネ、2008年北京オリンピック女子レスリング48キロ級で、2大会連続銀メダルを獲得。
	泉　浩（イズミ　ヒロシ） （1982～）	大間町出身。2004年アテネオリンピック男子柔道90キロ級で銀メダルを獲得。
	伊調　馨（イチョウ　カオリ） （1984～）	八戸市出身。2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロオリンピック女子レスリングで、金メダルを獲得。女子個人種目では五輪史上初となる4大会連覇を成し遂げ、2016年に国民栄誉賞を受賞。
	古川　高晴（フルカワ　タカハル） （1984～）	青森市出身。2012年ロンドンオリンピックで、アーチェリー個人戦に出場し、銀メダルを獲得。
	柴崎　岳（シバサキ　ガク） （1992～）	野辺地町出身。プロサッカー選手。2018年ＦＩＦＡワールドカップにおいて、青森県勢初の日本代表として健闘し、決勝トーナメント進出に貢献した。
	太田　忍（オオタ　シノブ） （1993～）	五戸町出身。2016年リオデジャネイロオリンピック男子レスリンググレコローマン59キロ級で、銀メダルを獲得。

歌手・俳優など	泉谷　しげる（イズミヤ） （1948～）	青森市長島で生まれ、東京都で育つ。フォークシンガーや役者として活躍中。東北新幹線全線開業のテレビＣＭでは、新青森駅長を好演した。
	三上　寛（ミカミ　カン） （1950～）	日本を代表するフォークシンガー。青森をバックボーンに津軽を原風景とした人間の生き様を歌い続ける。詩人として詩集やエッセイも多数。
	吉　幾三（ヨシ　イクゾウ） （1952～）	歌手。1977年に自身の作詞・作曲による「俺はぜったい！プレスリー」がヒット。代表曲「俺ら東京さ行くだ」「雪國」「酒よ」など。
	2代目 市川　笑也（ニダイメ イチカワ　エミヤ） （1959～）	歌舞伎俳優。スーパー歌舞伎のヒロインの座を射止め、一躍スターに。2003年に本県で開催された第5回冬季アジア競技大会では、開閉会式の総合演出を担当。
	佐藤　竹善（サトウ　チクゼン） （1963～）	ロックバンド「Sing Like Talking」のボーカル。音楽プロデューサーとして活躍。1998年、青森市市制100周年記念曲を発表。
	吹越　満（フキコシ　マン） （1965～）	俳優。数多くの映画、ドラマに出演。シリアスなものからコミカルなものまで、幅広い役柄を演じ、独特の存在感を発揮している。
	坂本　サトル（サカモト） （1967～）	シンガーソングライター。路上、飲食店、レコード店などでの「ＣＤ実演販売ライブ」が話題に。代表曲「天使達の歌」など。
	北山　陽一（キタヤマ　ヨウイチ） （1974～）	人気男性ヴォーカルグループ、ゴスペラーズのメンバーとして活躍。2008年には八戸市から八戸大使に任命される。
	凜華　せら（リンカ） （1980～）	宝塚歌劇団星組で男役として活躍。退団後は女優として、ミュージカル、舞台に多数出演。最近はラーメン達人として活動の幅を広げている。
	新山　千春（シンヤマ　チハル） （1981～）	青森市生まれ。タレント、クイズ番組などのバラエティ番組で活躍中。
	松山　ケンイチ（マツヤマ） （1985～）	むつ市出身の俳優。映画「デスノート」で一躍脚光を浴びる。全編青森県ロケ、全編津軽弁の映画「ウルトラミラクルラブストーリー」に主演。2012年ＮＨＫ大河ドラマ「平清盛」主演。
	木野　花（キノ　ハナ） （1948～）	女優・演出家。弘前大学教育学部美術学科卒業。80年代小劇場ブームの旗手的な存在。2013年ＮＨＫ連続テレビ小説「あまちゃん」にレギュラー出演。
	横浜　聡子（ヨコハマ　サトコ） （1978～）	青森市出身。2008年、商業映画デビュー作「ウルトラミラクルラブストーリー」を監督。全国公開され、多くの海外映画祭にて上映された。
	古坂　大魔王（コサカ　ダイマオウ） （1973～）	青森市出身。お笑いタレント。「ピコ太郎」の音楽プロデューサーとして「ＰＰＡＰ」を歌う動画の再生回数が１億回を超えるなど世界的に話題となった。
	ELLY（エリー） （1978～）	三沢市出身。人気グループ「三代目J SOUL BROTHERS from EXILE TRIBE」のパフォーマー。

⑧　体育・スポーツ施設

2015（平成27）年度に文部科学省が実施した「体育・スポーツ施設現況調査」によれば、県内の公共スポーツ施設は832施設ある。2017（平成29）年12月1日現在の主な県有体育施設は、次のとおりである。2016（平成28）年4月から新青森県総合運動公園内に整備を進めている陸上競技場は、2018（平成30）年12月に本体が完成しており、2019年9月の利用開始を予定している。

○　マエダアリーナ［新青森県総合運動公園総合体育館］（青森市）
○　青森県総合運動公園陸上競技場、野球場、屋外水泳場（青森市）
○　盛運輸アリーナ［青森県営スケート場］（青森市）
○　青森県武道館（弘前市）

⑨　県内を拠点に活動するスポーツチーム

県内には、地域と深く密着しながら活動するスポーツチームがあり、スポーツ振興や地域の活性化に貢献している。

【主なスポーツチーム】

○青森ワッツ（バスケットボール）
青森県を本拠地とするプロバスケットボールチーム。 青森県内に初めて設立されたプロスポーツチームで、Ｂ．ＬＥＡＧＵＥに参戦している。

○ヴァンラーレ八戸ＦＣ（サッカー）
2018（平成 30）年 11 月にＪ３昇格が正式決定。Ｊリーグ入会は青森県勢初。

○ラインメール青森ＦＣ（サッカー）
2016（平成 28）年から日本フットボールリーグに参戦しＪ３昇格を目指している。

○東北フリーブレイズ（アイスホッケー）
八戸市と福島県郡山市をホームタウンとして活動。2009（平成 21）年からアジアリーグに加盟している東北初のトップリーグチーム。

⑩　総合型地域スポーツクラブ

「誰でも、いつでも、いつまでも」スポーツができる環境づくりと地域コミュニティの形成が有効であると考えられることから、「多世代」、「多志向」、「多種目」により、地域住民が主体となって運営する「総合型地域スポーツクラブ」が全国で展開されている。

本県では、2018（平成30）年4月1日現在、30市町村で35の総合型地域スポーツ

クラブが創設されている。また、5市町5クラブ（うち未創設は2町2クラブ）が創設に向け準備を進めている。**（表４）**

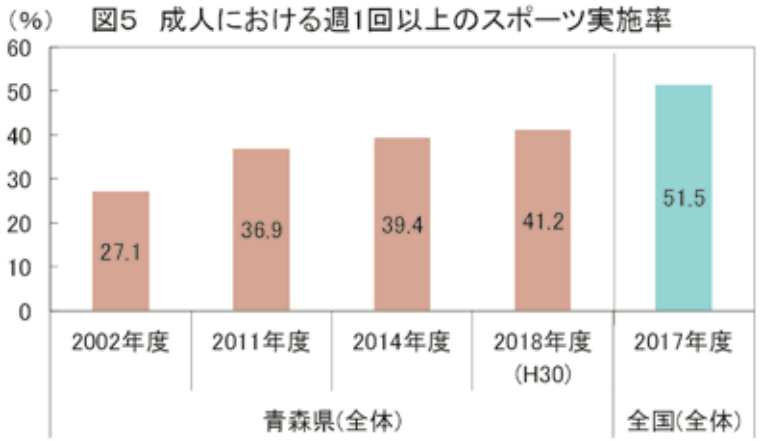
表４　県内の総合型地域スポーツクラブ

クラブ名	市町村名
青森総合スポーツクラブ Willスポーツクラブ 総合型地域スポーツクラブ ＣＬＵＢ Ｓａｌｕｔｅ	青森市
ＮＰＯ法人リベロスポーツクラブ ＮＰＯ法人スポネット弘前	弘前市
ヴァンラーレ八戸スポーツクラブ ウインズスポーツクラブ	八戸市
くろいしアスリート　アンド　エンジョイクラブ	黒石市
五所川原総合スポーツクラブ	五所川原市
総合型スポーツクラブ　ＲＥＤ　ＨＯＲＳＥ	十和田市
スポーツクラブみさわ	三沢市
むつアスリートクラブ	むつ市
いながきスポーツクラブ 車力楽笑スポーツクラブ	つがる市
ひらかわスポーツクラブ	平川市
平内ふれあいスポーツクラブ	平内町
今別町地域総合型クラブＷＡＮＤ	今別町
よもっと元気スポーツクラブ	蓬田村
東津軽郡スポーツクラブ	外ヶ浜町
鰺ヶ沢町スポーツクラブ	鰺ヶ沢町
総合型地域スポーツクラブ　Joy Spo！ふかうら	深浦町
ふじさきいきいきスポーツクラブ	藤崎町
一般社団法人　Roots 大鰐	大鰐町
りんごの里スポーツクラブ	板柳町
鶴田町放課後子どもプラン・子どもスポーツクラブ	鶴田町
東北町旭町地区総合型地域スポーツクラブ	東北町
ひばりさわやかスポーツクラブ	六ヶ所村
大間町総合型地域スポーツクラブ	大間町
東通村総合型地域スポーツクラブ	東通村
五戸町スポーツクラブ	五戸町
スポネットたっこ	田子町
一般社団法人総合型クラブななっち	南部町
一般社団法人ライズはしかみ	階上町
一般社団法人さんのへスポーツクラブＥｎｊｏｙ	三戸町
三ツ岳スポーツクラブ	新郷村

資料：青森県広域スポーツセンター（県教育庁スポーツ健康課内）

⑪　県民のスポーツ実施率

成人における週1回以上のスポーツ実施率は、着実に増加傾向にあるものの、全国平均を下回っている。**（図５）**



資料：県教育庁「県民の健康・スポーツに関する意識調査」、スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」

⑫　あおもりアスリートネットワーク

本県にゆかりのあるオリンピアンやトップアスリート、指導者等が主体となり、スポーツを通じた様々な社会貢献活動を展開する「あおもりアスリートネットワーク」が2012（平成24）年11月に設立され、県民のスポーツを推進するための活動や、本県における競技力向上のための活動、青少年の健全育成や健康増進のための活動を行っている。